

## TDB 圏域別景気 DI (2021 年 5 月)

### 4 月から 7 割の圏域で景況感が悪化 ～ 同一県内の圏域であっても景況感に濃淡が表れる ～

データソリューション企画部

池田 直紀

TDB 景気動向調査 (2021 年 5 月) の景気 DI は、前月比 0.8 ポイント減の 37.5 となり 4 カ月ぶりに悪化した。休業や営業時間の短縮などが個人消費の下押し要因となったほか、燃料価格の上昇がコスト負担を高めた。他方、海外経済の回復で輸出が大きく増加したことに加え、自宅内消費の拡大がプラス材料となるなど、企業の景況感は「K 字型回復」の傾向が一段と強まった。本レポートでは、全国 47 都道府県を 130 の圏域に分割し、圏域別の景気 DI や長野県内の 4 つの圏域に焦点を当てて動向を捉えた。

#### 1. 「秩父」の景気 DI が 52.8、唯一 50 超で 130 圏域中トップ

TDB 景気動向調査 (2021 年 5 月) の景気 DI は前月比 0.8 ポイント減の 37.5 となり、4 カ月ぶりに悪化となった。圏域別にみると前月から 130 圏域のうち 34 圏域 (2021 年 4 月は 65) で改善、7 割にあたる 91 圏域 (同 56) が悪化となった。

また、景気 DI を 10 ポイント区切りでみると、50 台以上は 1 圏域 (同 1)、40 台は 32 圏域 (同 44)、30 台は 89 圏域 (同 79)、20 台は 8 圏域 (同 6) となった。特に景気 DI が 30 台以下の圏域が前月より増加し、全体の景況感を下押しした。

なかでも、『建設』と『製造』が高水準で推移した埼玉県秩父市などの「秩父」が 52.8 で最も高くなった。以下、熊本県八代市などの「県南・天草」(49.3)、群馬県沼田市などの「吾妻・利根沼田」(47.9)、長野県飯田市などの「諏訪・上伊那・飯伊」(47.1)、同じく上田市などの「佐久・上小」(47.0) などが 40 台後半で上位に並んだ (表 1)。

#### 2. 長野県における 4 圏域の景気 DI、同一県内であっても濃淡がみられる

今回調査では、4 カ月ぶりに全国の景気 DI は悪化した。そのなかでも長野県 (43.4) では 4 カ月連続の改善、47 都道府県中 2 カ月連続でトップとなった。圏域別にみても上位 5 圏域中 2 圏域は長野県の圏域である。

長野県内 4 圏域の景気 DI をみると、40 台後半となった「諏訪・上伊那・飯伊」や「佐久・上小」は、好調な『製造』が景況感を押し上げている。とりわけ、機械製造に関連する企業の集積がみられ、景況感をけん引していた。『製造』に関連する企業からは、「半導体関連や海外向けなどの受注が好調」(圧力・流量計等製造、佐久・上小) といった声が聞こえている。また、その他の業界に

<sup>1</sup> 企業が実感する地域の景況感により近づけるため、地域の経済的なつながりや交通網などを考慮し全国 47 都道府県を 130 の圏域に分割して、圏域別景気 DI を算出

においても「個人住宅の引き合いが好調」（木造建築工事、諏訪・上伊那・飯伊）とあるように、比較的明るい声が聞かれた。

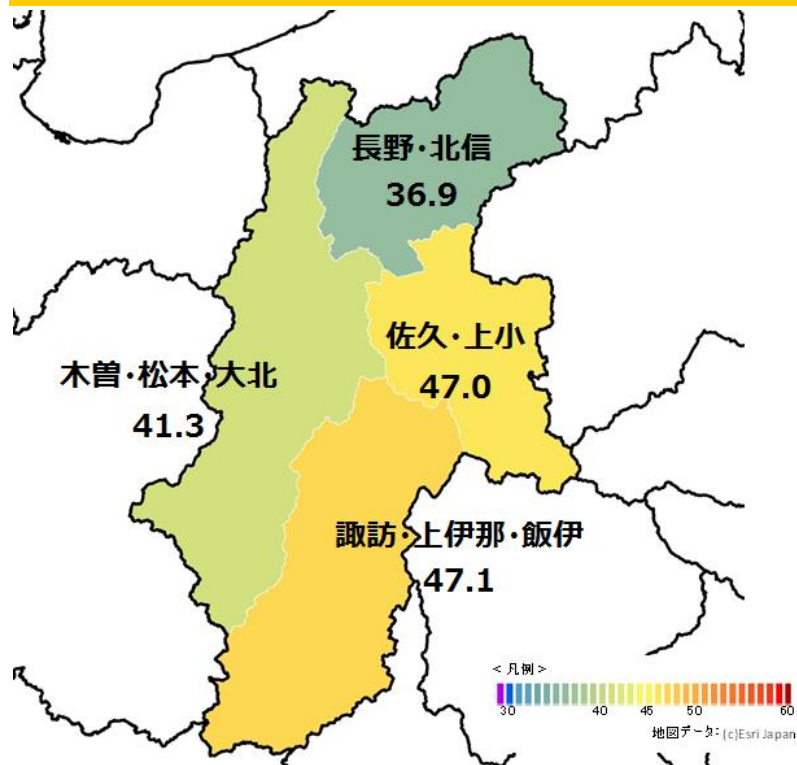
他方、4 圏域中唯一 30 台となった長野県長野市などの「長野・北信」（36.9）では、『製造』や『建設』などが他の圏域より低調となったほか、企業からは、「新型コロナウイルスの影響が長期化していることで消費や民間設備投資に陰りがみられ、内需関連貨物は低迷。好調だった公共工事関連もピークアウト感がある」（一般貨物自動車運送、長野・北信）といった声があげられた。

全国最高の景気 DI となった長野県であるが、同一県内であっても域内最高の圏域と最低の圏域では 10 ポイント以上の開きがみられている。

表 1 2021 年 5 月の圏域別景気 DI（上位 10 圏域）

2021年5月調査－上位10圏域－				
順位	都道府県	圏域	主な都市	景気DI
1	埼玉県	秩父	秩父市	52.8
2	熊本県	県南・天草	八代市・天草市	49.3
3	群馬県	吾妻・利根沼田	沼田市	47.9
4	長野県	諏訪・上伊那・飯伊	飯田市・諏訪市	47.1
5	長野県	佐久・上小	上田市・佐久市	47.0
6	和歌山県	和歌山南部	田辺市・新宮市	45.5
7	宮崎県	都城北諸県	都城市・日南市	45.1
8	佐賀県	佐賀南部	佐賀市・鳥栖市	45.0
9	宮城県	大崎・栗原・登米	大崎市・栗原市	44.1
9	高知県	高知東部	南国市・室戸市	44.1

図 1 2021 年 5 月の長野県 4 圏域別の景気 DI



## まとめ

本レポートでは、2021年5月のTDB景気動向調査を用いて、全国を130圏域に分割して圏域別の景気DIを算出し、特徴を捉えた。

2021年5月の圏域別の景気DIは、7割の圏域で前月比悪化となった。一方で、「秩父」や「県南・天草」では、高水準が続き全国の中でも比較的好調を維持していた。

また、長野県の4圏域に焦点を当ててみると、好調な『製造』がけん引し、「諏訪・上伊那・飯伊」や「佐久・上小」では40台後半となった。他方、「長野・北信」では30台後半となり、同一県内であっても景況感に10ポイント以上の差が表れていた。

企業活動を行う上で、圏域別の景況感を把握することは重要である。同じ都道府県内であっても、地域によって景況感に濃淡が表れている。その特徴を的確に捉え、企業活動に生かすことが肝要となろう。

### 【 問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク データソリューション企画部 産業データ分析課

池田 直紀

03-5775-3163 keiki@mail.tdb.co.jp

帝国データバンクで毎月実施している TDB 景気動向調査にご協力いただける企業さまは、こちらから登録できます（スマートフォン等をお使いの方は QR コードからも可能です）。

<https://www.tdb-di.com/ent/rent.html>



当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。